

天文学の扉を開こう

9月の夜空

【天の川】

「天文台で天の川見えますか」とときどき尋ねられることがあります。群馬北部は暗い夜空に恵まれたところですから、ぐんま天文台でももちろん天の川を見ることができます。月の無い夜、銀の真砂のような星々の間に淡く長く伸びる天の川は、薄雲のようでもあり、星々とは異質のものでもあるように思えます。

けれども、いまから400年ほど前、手作りの望遠鏡を天の川に向けたガリレオ・ガリレイは、そこに無数の星を見出しました。天の川が星々の集まりであることを発見したのです。それから約200年後、ウィリアム・ハーシェルは天の川の星々が平たく散らばっていることを明らかにしました。天の川のかたちを初めて見出したのです。このとき、ハーシェルは、太陽が天の川の中心近くにあるとしました。これは星々の間にある塵やガスが遠くの星々を隠してしまうことが知られていなかったためです。霧の中で明かりを灯すと、そこを中心に一定の範囲だけが照らし出されるようなもので、ほんとうは天の川はもっともっと広がっていて、太陽が中心ではなかったのです。

このことが明らかになったのは20世紀に入ってからで、シャープレーが数十個の球状星団の散らばり方を調べてみてのことでした。球状星団は太陽から離れた位置を中心に散らばっていたのです。

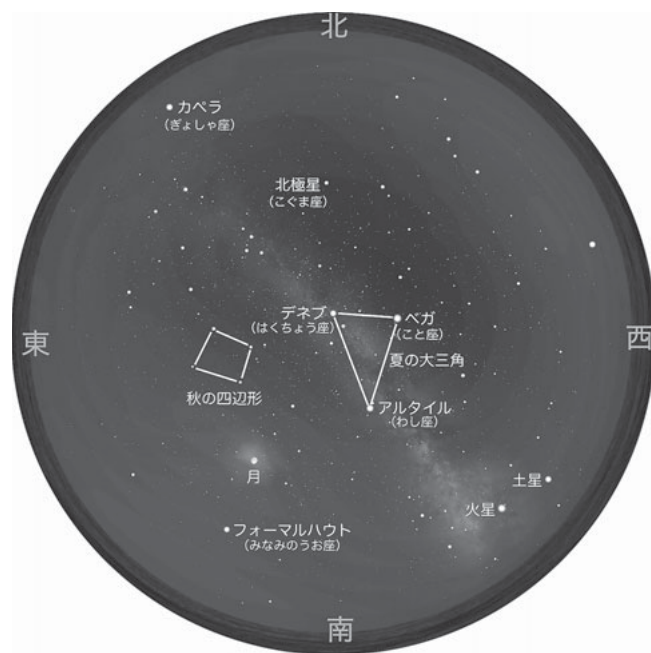
今では、天の川は「銀河系」と呼ばれる星やガスの集まりをその中から眺めた姿であることがわかっています。星の数は太陽2000億個分を超えています。電波観測などで調べられた銀河系は、渦を巻いているような姿をしていて、中心部に棒のような形がみられる「棒渦巻き銀河」とであると推定されています。太陽系はその中心から約2万8千光年の位置にあります。夏に見える幅が広く明るい天の川は、銀河系の中心方向を眺めた姿です。

9月のぐんま天文台のイベント

- ・25日(日)まで ぐんま天文台天体写真展
- ・10日(土) 携帯カメラやデジカメで月を撮ろう
- ・24日(土) 星空さんぽ
- ・24日(土) 屋外コンサート

○星図の説明

9月15日午後9時の高山村の星空。
月初めの午後10時、月末の午後8時頃にも
同じ星空になります。(「月」を除く。)



大勢の人たちでにぎわった ふるさと祭り



いぶき太鼓で幕開け！



たかやまエコーズライブ



たかやま高原野菜プレゼント



子どもたちも大興奮!!



商工会青年部による飲食販売



特賞TV当選者と記念撮影

リトル ミュージアム

高山幼稚園5歳児の作品
七夕かざりを作りました。



(短冊と貝殻つなぎ)
つかごし あつき くん



(短冊とダイヤつなぎ)
ごとう ゆきと くん

こちら「7代目緑のふるさと協力隊」

こんにちは！第23期緑のふるさと協力隊の増田雄太です。

高山村に来てから4カ月、高山村で迎える初めての夏です。今まで住んでいた千葉市や浜松市に比べ、夏の気温が大きく違い驚くとともに、高山の過ごしやすさを実感しています(その分冬の寒さが心配ですが)。

8月に入ってからは、高山村最大のお祭り「ふるさと祭り」や地域づくりインターン生との交流があり、改めて高山村の活気を感じる機会が多かったです。また、地域おこし支援隊の方々が、地域の資源を有効に使う高山村の魅力を引き出すことに貢献されています。

いたのも印象的でした。村のことを十分に理解し、村の魅力を本気で伝えたいという気持ちが必要だと思います。

来月は、自分が企画する「若葉のふるさと協力隊」があるので、支援隊の先輩たちのように、参加してもらった人たちに高山村の魅力や伝えたいと思いを。

また、高山村にお世話になる間に、色々とお話を聞いて、色々と経験を積んでいくように日々の活動を頑張っていきたいと思っています。



地域づくりインターンの会 学生と一緒に

緑のふるさと協力隊ブログ「高山てくてく」 <http://life-takayama.hatenablog.jp/>